古墳時代初頭から前期頃の靫と関連資料の分布

橋本達也2014「元稲荷古墳の靫」『元稲荷古墳』向日市埋蔵文化財調査報告書第101集を改変して転載

日本列島の古墳時代初頭から前期の主な靫と関連資料一覧表

| 番号 | 靫型式 | 古墳名・遺跡名 | 県名 | 靫名称 | 矢筒部 本体 主な材質 | 矢筒部 本体 文様 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 雪野山タイプ | 雪野山 | 滋賀 | 棺内靫 | 革 | 菱形文様 | |
| 2 | | 大迫山1号 | 広島 | | 革 | 菱形文様 | |
| 3 | | 石塚山 | 福岡 | | | 菱形文様 | |
| 4 | 瓦谷タイプ | 瓦谷1号 | 京都 | | 革 | 菱形文様 | |
| 5 | | 森尾 | 兵庫 | | | 菱形文様 | |
| 6 | 雪野山・瓦谷折衷タイプ | 城の山 | 新潟 | 南靫 | 革 | 菱形文様 | |
| 7 | 山王寺大枡塚タイプ | 山王寺大枡塚 | 栃木 | | 革？ | 直弧文 | |
| 8 | | 石山 | 三重 | 東槨靫 | 革？ | 直弧文 | |
| 9 | 鼓山タイプ | 稲部遺跡19次SD02溝 | 滋賀 | | 繊維 | 綾杉文様 | 古墳時代初頭集落出土 |
| 10 | | 元稲荷 | 京都 | | 繊維 | 綾杉文様 | |
| 11 | | 水堂 | 兵庫 | | 繊維 | 綾杉文様 | |
| 12 | | 鼓山1号 | 福井 | 1号靫 | 繊維 | 綾杉文様 | |
| 13 | | 鼓山1号 | 福井 | 2号靫 | 繊維 | 綾杉文様 | |
| 14 | | 波路 | 京都 | | 繊維 | 綾杉文様 | |
| 15 | | 琵琶隈 | 福岡 | | 繊維 | 綾杉文様 | |
| 16 | | 備前車塚 | 岡山 | | 繊維 | 綾杉文様 | |
| 17 | | 会津大塚山 | 福島 | 北棺靫 | 繊維 | 綾杉文様 | |
| 18 | | 大森塚 | 宮城 | 西槨靫 | 繊維 | 綾杉文様 | |
| 19 | 国分尼塚タイプ | 国分尼塚1号 | 石川 | | 繊維 | 山形文様 | |
| 20 | 会津大塚山タイプ | 会津大塚山 | 福島 | 南棺靫 | 繊維 | 市松文様 | |
| 21 | | 鴨都波1号 | 奈良 | | 繊維 | 市松文様 | |
| 22 | | 雪野山 | 滋賀 | 棺外靫 | 繊維 | 市松文様 | |
| 23 | | 阿志岐B－26 | 福岡 | | 繊維 | 市松文様 | |
| 24 | | 城の山 | 新潟 | 北靫 | 繊維 | 市松文様 | |
| 25 | | 城の山 | 新潟 | 中央靫 | 繊維 | 市松文様 | |
| 関連資料 | | | | | | | |
| 26 | | 纏向遺跡辻地区土坑10 | 奈良 | — | 繊維 | 綾杉文様 | 古墳時代初頭集落出土 筒状繊維製品 |

靫の型式は杉井健2013「漆塗り製品」『古墳時代の考古学』第4巻（副葬品の型式と編年）　同成社による。

靫の部分名称

福井市鼓山古墳1号靫(鼓山タイプ)　高さ69.0cm

靫の調査では関係者・関係機関の方々にご指導・ご協力いただきました。

# 稲部遺跡出土 3世紀の靫（ゆき）

Yuki,a quiver in the third century,early kofun period excavated from Inabe Site,Hikone City

彦根市文化財課
Hikone City

稲部遺跡　靫集合写真（上　2号横帯・下2点　1号横帯）

稲部遺跡出土 3世紀の靫（ゆき）

2024年（令和6年）3月発行

編集・発行　彦根市文化財課
〒522－8501　滋賀県彦根市元町4番2号
Tel：0749－26－5833
Fax：0749－26－5899
E-mail:bunkazai@mx.hikone.ed.jp

## ■靫とは

靫は、矢尻を上向きにして矢を入れる細長い箱状の武具の一種です。その多くは背負って使われ、背負う際に紐通しに紐を通して結ぶことで体に固定したと推定されます。織物、繊維、革、木、漆を使い、高度な織物の技術、漆工技術、木工技術、革の加工技術等を駆使して専業工房で作られたと考えられます。

靫は主に古墳時代初頭から前期に使われ、この時期では北部九州から東北にかけて25例以上が知られます。主に3世紀後葉～4世紀の畿内周辺、北陸ルートと瀬戸内ルートの要衝に位置する古墳に副葬され、最上位の首長が権力を誇示する威儀具(いぎぐ)として所持したものと考えられています。

稲部遺跡の靫は、水辺の祭祀に関わる導水施設の溝SD02で板等といっしょに出土しました。時代は、出土土器等から古墳時代初頭(3世紀中頃)と考えられます。この靫は、墓に副葬されず、靫が古墳副葬品として確立する時代より古く、近江湖東地域に位置する稲部遺跡の拠点集落で出土しました。

### 稲部遺跡出土靫の特徴

稲部遺跡19次調査(2019年)出土靫は、一つの靫の複数の横帯(1号横帯・2号横帯)とみられ、2号横帯には靫に特有な部分である幅9㎜の紐通しが備わります。1号横帯は長軸18.7㎝、短軸4.5㎝、2号横帯は残存部で長軸17.1㎝、短軸12.2㎝の大きさです。いずれも1㎜程度の厚さです。

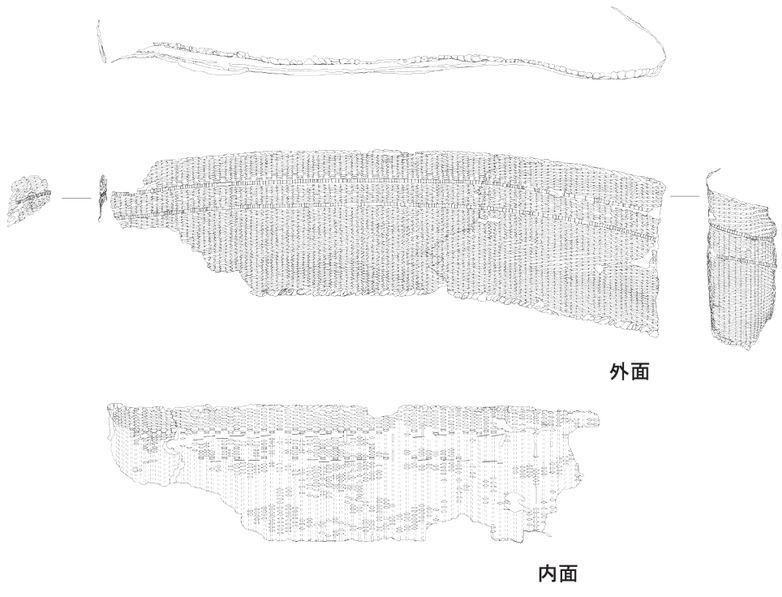
■**年代**　溝出土の土器と放射性炭素年代測定により、庄内式期末に位置する可能性があり、下限は布留式期初頭、3世紀中頃(約1,800年前頃)と考えられます。

■**素材**　靫は、撚りをかけた絹糸を経糸とし、植物繊維を緯糸に使った綾織物(あやおりもの)で、黒色物質を混ぜた漆が塗られています。外面の長辺方向には2条ないし3条の節状の突帯が付き、この突帯にも絹糸が巻き付けられています。

■**織組織**　織物の大部分は綾織で、綾杉文様を構成しますが、一部に市松文様の織組織があります。 綾織物は、経糸が緯糸を2本越し、交差する織組織です。外面は、経糸1本が緯糸2本を越し、次に1本沈む、1単位が3本で構成される「経三枚綾(たてさんまいあや)」、内面は「緯三枚綾(よこさんまいあや)」と呼ばれる織組織です。

■**構造**　2本の横帯部分等が残り、漆を塗布した横帯のみが残って矢筒全体が残らないため、矢筒部には革あるいは繊維の有機質が使われた可能性があります。

SD02
板
ヒノキ科
残存長
151.0cm




靫　1号横帯(1:2)

### 稲部遺跡出土靫と古墳出現期の近畿

稲部遺跡の靫は、横帯と紐通しの形態、織組織において、3世紀後葉から末以降の古墳時代前期に属する古墳に副葬された靫と共通点が認められ、古墳副葬靫に矢筒部の形、織組織、デザインが引き継がれたと考えられます。

3世紀の近畿では絹糸を利用した絹織物は貴重であり、素材となる絹糸や綾織の紡織技術あるいは綾織物による製品が大和盆地や近江地域に将来されたと考えられます。どのように外来的な素材、技術あるいは希少な繊維製品がもたらされたのか、同時代の他の絹糸を用いた繊維製品等との関係性のなかで考えていく必要があります。

稲部遺跡の靫の調査研究によって、3世紀の織物の技術、日本列島の古墳出現期における靫の出現と系譜、古墳時代初頭の社会を考える上で大きな手がかりが得られると期待されます。

繊維遺物
繊維を組み合わせた針葉樹製の木製品
残存長20.4㎝、残存幅6.1㎝

炉材と推定される土製品
残存長3.3㎝　残存幅3.65㎝
残存厚1.6㎝

ガラス丸玉
鉛ガラス製
1.14㎝×1.22㎝　4.0g

桃の種　残存長1.9㎝

SD02溝で出土した遺物

※下層は出土した時の下面を指します。

下層外面

上層外面

靫　2号横帯(1:2)

SD02出土土器(1:6)　上層出土